

話題を追って

## 第10回キッズデザイン賞 最優秀賞・内閣総理大臣賞を、自然と対話する幼稚園 「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」が受賞

2016年8月29日、六本木ヒルズ内49階「アカデミーヒルズ49」で行われた「第10回キッズデザイン賞」受賞記者発表会において、受賞作品297点の中から、最優秀賞・優秀賞など、優秀作品34点が発表された。

子どもや子育てに関わる人々の生活を豊かにするデザインを顕彰する「キッズデザイン賞」(特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催)は、今年で第10回目を迎えた。

今回の応募数は、過去最多の503点。8月29日(月)、六本木ヒルズ内49階「アカデミーヒルズ49」で行われた受賞記者発表会において、受賞作品297点の中から、最優秀賞・優秀賞など、優秀作品34点が発表された。

記念すべき第10回目の最優秀賞、内閣総理大臣賞は、「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」(企業・団体名:学校法人 内野学園 東京ゆりかご幼稚園/渡辺建築都市設計事務所/リズムデザイン=モヴ/三高設計)が受賞した。



受賞作品発表の様子

### 第10回キッズデザイン賞

キッズデザイン賞は、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会(会長 和田勇:積水ハウス株式会社 代表取締役会長兼CEO)が2006年から主催する、子どもへの配慮、子ども目線を持った良質な製品・空間・サービス・プログラム・調査研究活動などを幅広く顕彰する制度。「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを



表彰作品、プロジェクトなどの展示

産み育てやすいデザイン」という3つのデザインミッションを実現するため、優れたものを選び、広く社会へ伝えることを目的している。乳幼児用品や玩具など子ども向けの製品・サービスだけでなく、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもの目線を持った良質な商品・施設・プログラム・調査研究活動も対象としていることが賞の特徴である。

第10回目を迎えた今回の応募数は過去最高の503点となり、2007年の第1回以来、全国の企業のみならず、自治体や教育機関・NPOなど様々な団体からの応募があり、「子どもの安全」「子どもを産み育てやすい社会づくり」への興味・関心の高まりとともに、応募作品は年々増加し、10年間の累計受賞作品数は2,155点に達する。第10回の新たなトピックスとしては東京都知事賞の新設、これまで8つあった応募部門

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン

子どもの身体特性や行動特性、不測の状況が子どもにもたらす影響などに考慮し、技術や素材においてもその応用・活用が優れているデザイン

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン

子どもの想像力を喚起/進化させる仕掛けや、身体的・精神的発育に対する新たな提案、子どものコミュニケーション能力、表現能力を高める工夫が施されているデザイン

子どもたちを産み育てやすいデザイン

子どもの安全を確保し、かつ親(大人)の身体的・精神的負担の軽減や、出産、育児を安心に、楽しく行うための配慮がなされているデザイン

キッズデザイン 3つのデザインミッション



最優秀賞 内閣総理大臣賞「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」の展示

を、よりわかりやすくするようデザインミッションに基づいた3部門に集約したことなどが挙げられる。

記者発表会・表彰式当日は、第10回目の開催ということもあり多くの来場者で賑わった。また、「キッズデザイン、これまでの10年・これからの10年」をテーマとした審査委員

による座談会も開催、審査委員長の益田文和氏(インダストリアルデザイナー/オープンハウス 代表取締役)、副審査委員長の赤池 学氏(科学技術ジャーナリスト/ユニバーサ



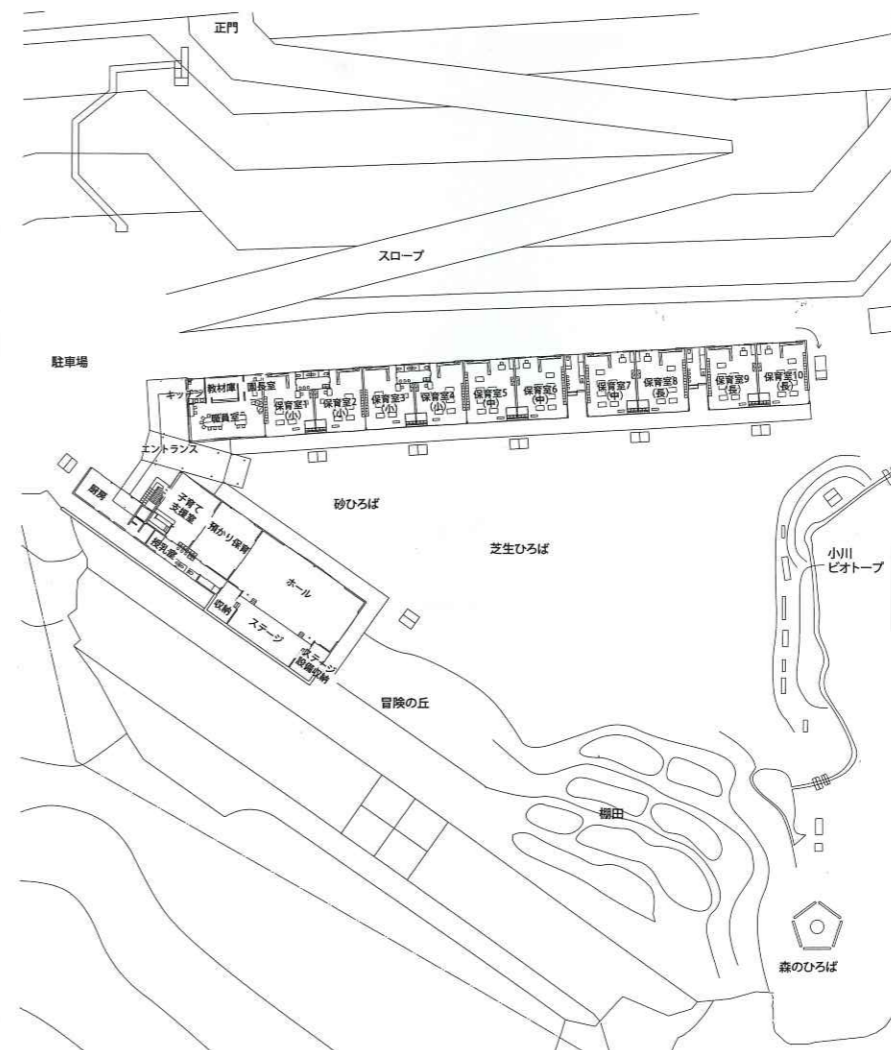
左から、東京ゆりかご幼稚園 内野 彰裕理事長・園長、経済産業大臣政務官 中川 俊直氏、渡辺治建築都市設計事務所 渡辺 治氏

ルデザイン総合研究所 所長)、竹村 真一氏(文化人類学者/京都造形芸術大学 教授)、橋田規子氏(プロダクトデザイナー/芝浦工業大学 教授)が登壇し、それぞれキッズデザイン賞への思いを語った。

### 最優秀賞 内閣総理大臣賞を「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」が受賞

記念すべき第10回の最優秀賞 内閣総理大臣賞は「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」(企業・団体名:学校法人 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園/渡辺建築都市設計事務所/リズムデザイン=モヴ/三高設計)が受賞した。

東京ゆりかご幼稚園は、昭和50年に東京都八王子市の館ヶ丘団地内で開園した。同園は創立40周年を控えた平成26年4月に、町田市との境に近い八王子市南部の七国に移転し、新園舎を整備した。現在の東京ゆりかご幼稚園は、2.2haの敷地に、園庭里山化計画のもと、木造園舎やビオトープなどが整備された子ども達が自然と触れ合うことのできる幼稚園である。17mの高台の敷地は、強風や風雨など厳しい自然環境であったが、道をつくり、治水し、強風と直射光を遮る木造の大屋根が



東京ゆりかご幼稚園配置図兼平面図